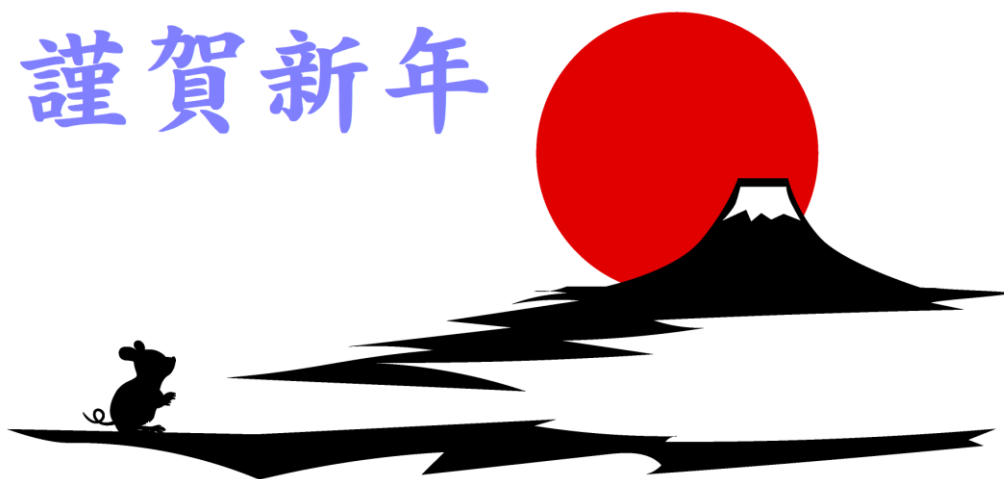


謹賀新年



令和二年 庚子 正月

新年明けましておめでとうございます。昨年はお代替わりの年でした。四月には平成から令和への改元と上皇陛下の退位に関わる諸儀が行われ、五月から天皇陛下の即位に関わる諸儀が行われました。

皇位継承関連の諸儀としては、今年四月にも立皇嗣の礼が行われる予定ですが、昨年中におおむねお代替わりの諸儀が恙なく執り行われたこと、まことによるこぼしい限りでした。

他方、昨年は豪雨や台風などの災害が立て続けに発生し、お代替わりにおいても即位礼祝賀御列の儀（祝賀パレード）が延期になるなどの影響がありました。

昭和から平成へのお代替わりにおいては、不埒なる極左集団による大喪の礼粉砕・即位の礼粉砕・天皇制打倒を掲げた爆弾闘争が繰り広げられました。諸儀を止めることはできませんでした。しかし、こ

神苑の決意 主筆 木川智

のたびのお代替わりにおいては、自然災害が諸儀に多大な影響を与えたわけであり、これからの時代、私たちが真に立ち向かうべきものは何かをよくあらわしているかと思えます。

また本誌は創刊より安倍政権を厳しく批判してきましたが、その安倍政権の悪運もとうとう尽きたかのように見えます。

沖縄の問題でも昨年、長らく指摘されてきた辺野古新基地建設の工期長期化や工費の増大などを防衛省が認めました。

このような昨年の動きを振り返ると、その場その時の情勢に押し流されるような烏合の衆に与することなく「真」を見据え、「先」を見抜き、そして自身の見解と分析に「信」を置いて筆を振るうことが本年においても求められているものと思います。

力の限り論じてまいりますので、読者の皆様にはどうぞよろしくお願い申し上げます。

神苑の決意

平和と独立を求める民衆の「決意」を伝える
神道ジャーナリズム誌

本号の内容 「新年のご挨拶」（木川智）：1／【解説】中曾根康弘と戦後保守「風見鶏」と言われた政治家の死について（木川智）：2／【連載】アジアカ放浪記―歴史を掘り起こし日本を見る―33ラオス編おわり（仲村之菊）：7／花瑛塾十二月活動報告：9／【連載】葦津珍彦と神道ジャーナリズム「時の流れ」を読み解く1（鎌倉佐助）：13／【解説】「直訴」小考 山本太郎の直訴は「不敬」に非ず（西山徹）：16／お知らせ・編集後記：20

1部 1000円
（別途送料160円）